

☆RIM BIOMASS INTELLIGENCE WEEKLY

★No. 28 Jul 30 2020

Copyright (C) 2020 Rim Intelligence Co. All rights reserved.

—TOKYO, 18:00 JST Jul 29 2020<Assessment Closing Time>

「リム価格」は登録商標です 登録番号・第5387777号

◎お知らせ

○「立ち寄りオンラインセミナー」のお知らせ

リム情報開発は、コロナ禍の只中にある日本のエネルギー産業の現状と未来像についての考察を深めていただくための一助とすべく、以下の要綱でオンラインセミナーを開催いたしますのでお気軽に覗いてください。

◆テーマ：コロナにより変わりゆく日本のエネルギー産業

◆日時：8月27日（木）、9月3日（木）ともに14～15時30分※短時間の参加も歓迎

◆形式：Microsoft Teamsを使用。事前にセミナーへアクセスできるURLをお送りします。

◆お申し込み：参加は無料。申し込みの締め切りは8月24日（月）までとさせていただきます。ご参加を希望される方は、下記のリンクよりお申し込みください。

<https://is.gd/JPeVYW>

不明点やご質問がありましたら、何なりとお問い合わせください。

リム情報開発(株) 研修・セミナー開発チーム

電話 03-3552-2411 E-Mail info@rim-intelligence.co.jp

◎リムエネルギー総合指数22種(レックス22、2010年平均=100)

30日のレックス22は、前日から0.77ポイント上昇し66.76です

-----リムレポートのご紹介-----

リム情報開発のレポートラインアップは、下記のURLからアクセスください。各レポートのサンプルに加え、内容についての詳細な説明がご覧いただけます。

<https://www.rim-intelligence.co.jp/first/report>

原油・コンデンセート	アジア石油製品	バンカーオイル
ローリーラック(国内陸上)	ジャパン石油製品(国内海上)	LPG LNG
石油化学	ポリオレフィン	電力
バイオマス(週刊)	デイリーデータ	Rim Data File
CROSS VIEW軽油	CROSS VIEW重油	エネルギー通信

上記に関するお問い合わせは、TEL 03-3552-2411 E-mail info@rim-intelligence.co.jp



◎Wood Pellets(木質ペレット \$/mt)		
OFOB Southeast Asia(Vietnam and Indonesia) Spot Prices for South Korea		
	Wood Pellets	Yen/mt
FOB spot prices (Aug)	90.00-100.00	9,553-10,614
FOB spot prices (Sep)	90.00-100.00	9,553-10,614
FOB spot prices (Oct)	90.00-100.00	9,553-10,614
OFOB Southeast Asia(Vietnam and Indonesia) Spot Prices for Japan		
	Wood Pellets	Yen/mt
FOB spot prices (Aug)	120.00-130.00	12,737-13,798
FOB spot prices (Sep)	120.00-130.00	12,737-13,798
FOB spot prices (Oct)	120.00-130.00	12,737-13,798
OFOB North America(including southwest Canada) Spot Prices		
	Wood Pellets	Yen/mt
FOB spot prices (Aug)	110.00-120.00	11,675-12,737
FOB spot prices (Sep)	110.00-120.00	11,675-12,737
FOB spot prices (Oct)	110.00-120.00	11,675-12,737
OCFR Japan Spot Prices		
	Wood Pellets	Yen/mt
CFR Japan spot prices (Aug)	155.00-165.00	16,452-17,513
CFR Japan spot prices (Sep)	155.00-165.00	16,452-17,513
CFR Japan spot prices (Oct)	155.00-165.00	16,452-17,513
OFreight rates		
Southeast Asia to North Asia	19.00-23.00	
North America to North Asia	30.00-35.00	
TTS=106.14(7月29日、三菱UFJ銀行)		

◎PKS (パーム椰子殻 \$/mt)		
OFOB Indonesia Spot Prices		
	PKS	Yen/mt
FOB spot prices (Aug)	+5 110.00-115.00	11,675-12,206
FOB spot prices (Sep)	+5 110.00-115.00	11,675-12,206
FOB spot prices (Oct)	+5 110.00-115.00	11,675-12,206
OFOB Malaysia Spot Prices		
	PKS	Yen/mt
FOB spot prices (Aug)	93.00-98.00 -2	9,871-10,402
FOB spot prices (Sep)	93.00-98.00 -2	9,871-10,402
FOB spot prices (Oct)	93.00-98.00 -2	9,871-10,402
OCFR Japan Spot Prices		
	PKS	Yen/mt
CFR Japan spot prices (Aug)	130.00-140.00	13,798-14,860
CFR Japan spot prices (Sep)	130.00-140.00	13,798-14,860
CFR Japan spot prices (Oct)	130.00-140.00	13,798-14,860
OFreight rates		
Southeast Asia to North Asia	20.00-25.00	
TTS=106.14(7月29日、三菱UFJ銀行)		

◎木質チップ国内市場 (一般材、未利用材 Yen/mt)		
OJapan Domestic price (in Yen/mt)		
	Yen/mt	
一般材	7,500- 9,500	
未利用材	10,000-12,000	
(注記) 価格評価の対象は水分50%前後		

◎木質ペレット

○概況

東南アジア積み木質ペレットは、韓国向け、日本向けともに変わらず。韓国向けは、電力需要が回復傾向にあるものの、新たなスポット需要は浮上せず。一方、日本着市場では、来年度以降の年間契約の入札が待たれている。

○FOB 東南アジア

東南アジア積み木質ペレットは、韓国向け8~10月積みが90.00~100.00ドルと前週からもち合い。日本向けは8~10月積みが120.00~130.00ドルと横ばい。

韓国向けのスポット商談は低調。市場関係者によると、韓国では新型肺炎の感染拡大期に後退していた電力需要が回復傾向にあるという。しかし、電力公社の新たな買付け入札は開示されておらず、独立系発電事業者のスポット調達動きも見られない。

日本向けの新たなスポット商談も聞かれず。日本輸入社は引き合いを受けておらず、ターム玉の供給に注力している。一方、主要産地のベトナムでは、日本向けの需要増を見込み、ペレット製造工場の建設や生産能力の増強が順調に進んでおり、スポット販売余力が拡大しているようだ。しかし、「現在の日本の需要分の8~9割はターム契約で賄われており、スポット購入余地を抱える買い手はほとんど見当たらない」（日本商社1社）といい、スポット商談は成立しにくい様子。ベトナム積み、日本向けで100ドル台半ばの売りものがあると伝えられたものの、売り手など詳細は未確認。一部の市場関係者は、現在販売打診されているスポット玉の価格ではなく、

先月実施された2021年度以降のターム買付け入札の応札価格から試算されたFOBベースの商談水準だと指摘している。既報どおり、東北の発電事業者1社が先月実施した2021~2022年度分のターム買付け入札は、優先交渉権を得た商社の応札価格が、ベトナム積みでCIFベース130~140ドルだったと伝えられている。ベトナムと日本間のフレート相場を20ドル台前半とした場合（「フレート」参照）、FOBベースの調達価格は100ドル台後半~110ドル台後半と試算される。

一方、ベトナムでは新型コロナウイルスの感染拡大の第二波が懸念されている。ベトナム政府は27日、ベトナム中部のダナン市で、国内で約3カ月ぶりとなる新型コロナの感染者が発生したことを受け、同市内での社会的隔離措置の実施を発表した。これにより、市民に不要不急の外出自粛を要請しているほか、バスやタクシーなど一部の輸送活動が停止されている（「マーケットニュース」参照）。しかし、生産工場や工房での勤務、事業所での作業は認められていることから、ペレットの生産や出荷への影響は現時点で伝えられていない。

○FOB 北米

北米積み木質ペレットは8~10月積みがいずれも110.00~120.00ドルと前週から横ばいとなった。新たな売買唱えは浮上せず。

市場関係者によると、イギリスやスペインなど欧州各地で新型コロナウイルスの感染が再び拡大しており、電力需要が後退するとの懸念が強まっている。「もともと欧州ではスポット需要が強くなかったため、一段とトレーダーの買い

気が弱まりそうだ」（トレーダー）との指摘が聞かれた。

一方、市場関係者によると、カナダのバイオマス燃料大手ピナクル・リニューアブル・エナジーが販売した、7月北米積み約6万5,000トンの木質ペレットを積んだパナマックス船が英国に向けて航行している。1度の運搬量としては過去最大規模という。

OCFR 日本

日本着木質ペレットは8~10月着が155.00~165.00ドルと前週から変わらず。

国内の発電事業者2社が実施していたターム買付け入札が落札され、価格の最終交渉に進んでいることは既報どおり。対象は、東北の発電事業者1社が2021~2022年度分の22万トン、関東の発電事業者1社が2022~2023年度分の22万トンだった。東北向けの入札で優先交渉権を得たとされる日本商

社1社は、最終的な契約価格についてコメントを控えている。

これらの入札以降、新たに買付けに動いている発電事業者は見当たらない様子。日本商社1社は、先行き次年度以降の新たな入札が1~2件開示されると見込んでおり、発電事業者の動向を注視している。

○フレート

ベトナムと日本間のフレートは19.00~23.00ドルと前週から横ばい。北米と日本間のフレートは30.00~35.00ドルと張り付いた。

ベトナム出しの出荷はターム供給分を中心に順

調に推移している一方、スポット商談は低調のため、備船需要は強まっていないようだ。この中、「ベトナム~日本間の商談水準は高くても20ドル台前半」(市場関係者)との声が聞かれた。

◎PKS

○概況

インドネシア積みは供給の引き締まりを受け上昇。アブラヤシの収穫不良が相場を押し上げている。一方、マレーシア積みは需給緩和を背景に軟化した。マレーシアでは成約もできているようだが依然、売りものが散見され、需給に引き締まりがみられない。

○FOB 東南アジア

インドネシア積みPKSは8~10月積みが110.00~115.00ドルと前週から2.50ドル続伸した。供給逼迫が背景。

インドネシアでは、一部の地域でアブラヤシの収穫不良が懸念されている。現地のサプライヤー1社によると、昨年の降雨量が例年に比べて3割程度少なかったことを受け、収穫が伸び悩んでいる地域があるという。「あるプランテーション農家では収穫量も例年に比べ3割減と聞いており、収穫期に入っても原料コストが下がらない要因のひとつとなっている」(供給業者1社)との見方が寄せられた。インドネシアでは4~6月にかけて、新型肺炎の世界的な感染拡大を受けてパーム油の需要が減少したことから、ミル工場の稼働率を落とす動きが散見された。現在ではパーム油の輸出が回復し、工場も順調に稼働率を上げているため、原料となるアブラヤシの供給難が改めて意識されているようだ。

この状況下、既に販売価格の引き上げを通知しているサプライヤーが浮上しているもよう。インドネシア積みの商談水準は110~115ドルとみられている。

マレーシア積みPKSは8~10月積みが93.00~98.00ドルと前週から1.00ドル安。需給緩和を受けた。

マレーシアでは、主要な出荷地向けの供給が順調に確保されており、複数の売り手に9~10月積みスポット販売余地があると伝えられている。一部の売り手は90ドル台後半~100ドルで販売打診をしているもよう。加えて、90ドル台前半での商談入りを検討している売り手もいるようだ。しかし、売り物が散見されることから、大半の買い手は商談入りを急がず、様子見の姿勢をとっている様子。供給業者1社によると、このところ引き合いを受けておらず、買値は聞かれにくいという。

マレーシアでは、アブラヤシの収穫不良を懸念

する声は聞かれない。マレーシアパームオイル庁がまとめた統計によると、2020年1~6月のアブラヤシ果房(FFB)の収穫量は約4,600万トンと、前年同期比6.5%減に留まっている。

一方、一部の市場関係者によると、日本商社1社がこのほど、マレーシア積みのスポット玉を90

ドル台後半~100ドルで手当てしたようだ。ただ、積み地や時期などカーゴの詳細は不明。「現行の商談水準に比べて高値の成約であり、期近積みのカーゴだった可能性がある」(日本輸入1社)との見方が寄せられている。

OCFR 日本

日本着PKSは8~10月着が130.00~140.00ドルと前週から横ばいとなった。

複数の発電事業者が9月着以降のスポット調達を検討しているようだ。市場関係者によると、東北、関東、関西の発電事業者がそれぞれスポット購入を検討中との情報が寄せられた。

鹿児島県の七ツ島バイオマス発電所(出力49,000kW)は、燃料の年間使用量25万トンのうち、7~8割をPKSで賄っている。同社の関係者によると、

8~10月分はターム契約分とスポット調達分合わせて毎月2万トンの納入を確保しているという。スポット調達は5社以上の商社と協議の上、調達先を決定したようだ。七ツ島バイオマス発電所は11月に定修を控えており、次回の調達は12月となる見通し。「納入の3カ月前から価格交渉を開始するため、9月頃に契約をする予定」(同社の関係者)としている。

Oフレート

インドネシアと日本間、マレーシアと日本間のフレートはともに20.00~25.00ドルと前週からもち合った。商談水準は20ドル台前半で聞かれた。

市場関係者によると、東南アジア~日本間の近海船の商談が軟調だという。近海船は、日本から東南アジア向け航路では鉄鋼製品の運搬用途が主となっており、空船が東南アジアから日本向け航路でバイオマス燃料の運搬に利用されている。新型コロナの感染拡大以降、鉄鋼製品の需要が減退。日本では自動車工場の稼働率低下や建設工事の中止が相次いだことから、鉄鋼大手が高炉を一時休

止しており、再開の見通しは立っていない。バイオマス燃料の運搬は堅調なものの、鉄鋼製品の荷動きが低迷しているために、近海船の船余り感はこの数カ月解消していないという。

一方、このところ2~3万トン級のハンディサイズの利用が増えており、2港積み2~3港揚げの条件や相積みでの傭船がみられるという。ただ、「ハンディサイズの傭船は本来、近海船に比べてスケールメリットが得られるためコストを抑えられるはずだが、近海船の相場が弱いためにメリットは薄くなっている」(ブローカー1社)ようだ。

◎国内市場

○市況(7月29日時点)

未利用材チップは10,000~12,000円、一般材チップは7,500~9,500円とともに前週から変わらず。

○トピックス

【関西】

日本海水が9月末に運転を開始する予定の赤穂第2バイオマス発電所(兵庫県赤穂市、出力30,000kW)は8月後半に燃料の燃焼テストを行う

ようだ。6月より発電装置の試運転を始めており、立ち上げ準備は順調に進んでいるもよう。同発電所では、年間約24万トンの国内材(未利用材、一般材)とパーム椰子殻(PKS)を燃料に使用する。燃

焼テストで使う PKS は在庫で賄う。既報どおり、9月に PKS1 万トンが納入される予定だ。

新宮フォレストエナジーは現在、和歌山県新宮市で木質バイオマス発電所(出力1,764kW)を建設しており、当初計画通り12月までに運転開始の見通しだ。3月の建設工事開始以来、新型コロナウイルスの感染拡大、6月中旬以降の長雨といった逆風はあったものの、工期に特段の支障は出て

いない。同発電所は未利用材を年間約2万トン(水分量50%)使う。和歌山県の発電向け木材はチップより、原木での取引が主流とされ、新宮フォレストエナジーも近隣の林業家から原木を仕入れ、木質チップを内製する体制だ。新宮フォレストエナジーは、フォレストエナジーを中心に NTT ファシリティーズ、モリショウ、TJグループホールディングス、前田商行が共同出資し運営している。

(註)国内市場の項目では、動きのある地域的话题を随時掲載して参ります。

◎マーケット・ニュース

○経産省・農林省＝林業、木質バイオマス発電研究会を開催

経済産業省と農林水産省は林業・木質バイオマス発電の成長産業化に向けた研究会を立ち上げ、20日に初会合を開催した。委員には、岡本利彦日本木質ペレット協会会長、酒井秀夫日本木質バイオマスエネルギー協会会長、村松二郎全国森林組合連合会代表理事会長のほか、古林敬顕秋田大学大学院理工学研究科講師など、実務者のほか学識経験者も名を連ねている。

同研究会は、木質バイオマス発電の発電事業の自立化、木質バイオマス燃料の供給する森林の持続可能性確保の両立に向け、官民連携を話し合う目的として設置された。

初会合では、経産省から再生可能エネルギー政策全体の動向と木質バイオマスのエネルギー利用の現状と課題、農水省から木質バイオマスのエネルギー利用の現状と今後の展開をそれぞれ説明した。

両省によると、第2回会合の日程は未定だが、年内にもう1.2回の開催を検討しているという。

○熊谷組、東電など＝飯館村のバイオマス発電事業者に選定

熊谷組、神鋼環境ソリューション、東京電力ホールディングス、東京パワーテクノロジーは28日、4社が共同出資する「飯館バイオパートナーズ」が福島県飯館村におけるバイオマス発電計画の事業主体に選ばれたと発表した。飯館村が公募していた震災廃棄物の処理施設跡地(同村蔵平地区)におけるバイオマス発電所建設計画に応募し選定された。飯館バイオパートナーズは出力7,500kWのバイオマス発電所を建設し、2024年春の運転開始をめざす。燃料は福島県産のバーク(樹皮)を中心に間伐材も一部使う。年間の燃料消費量は計9万5,000トン进行予定している。

飯館村によると、公募には飯館バイオパートナーズのほかフォレストエナジー、新宮エネルギー、ブルー・バイオマスフューエルが応募していた。

○クラウドバンク＝茨城のバイオマス発電事業へ出資募る、目標利回り6.3%

融資型クラウドファンディングサービスを手掛けるクラウドバンクは、バイオマス発電ファンドの出資者を募集している。募集しているのは「バイオマス発電ファンド第217号」、「バイオマス発電ファンド第218号」の2本。217号、218号とも集めた資金は茨城県で液体バイオマス発電所建設を計画中の事業者へ投じる。ファンドの最低投資額は10,000円。運用期間は14カ月で目標利回りは年率6.3%(税引き前)。募集期限は7月末まで。

○ベトナム＝新型コロナでダナン閉鎖、燃料油需要の後退懸念

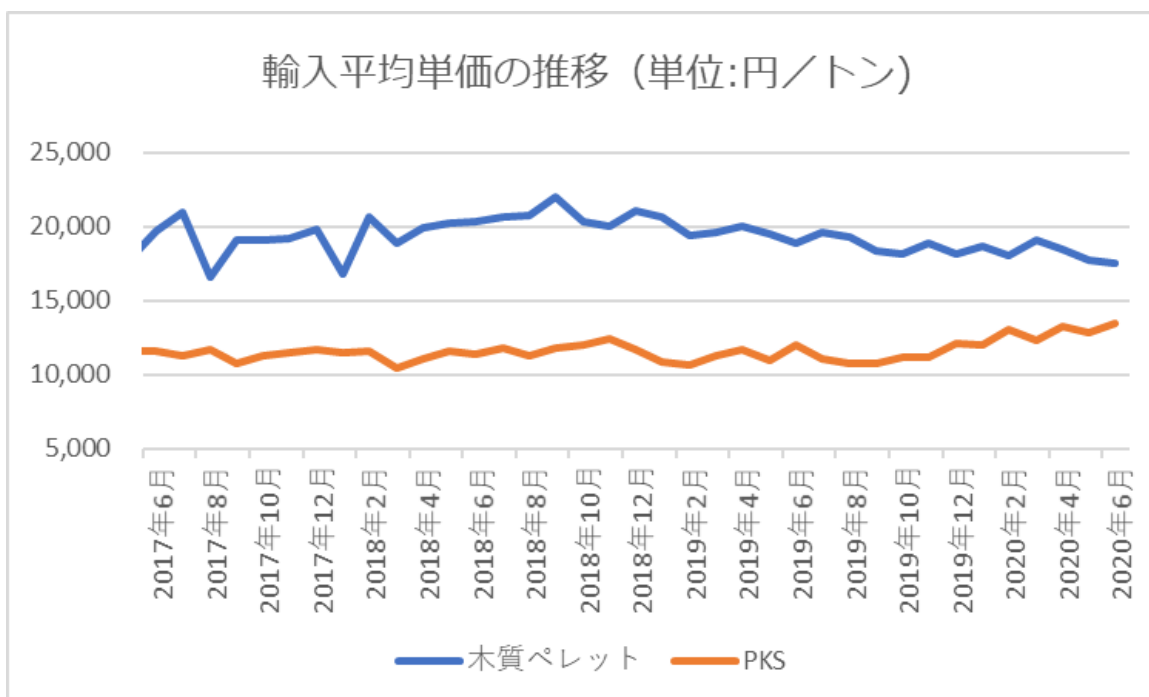
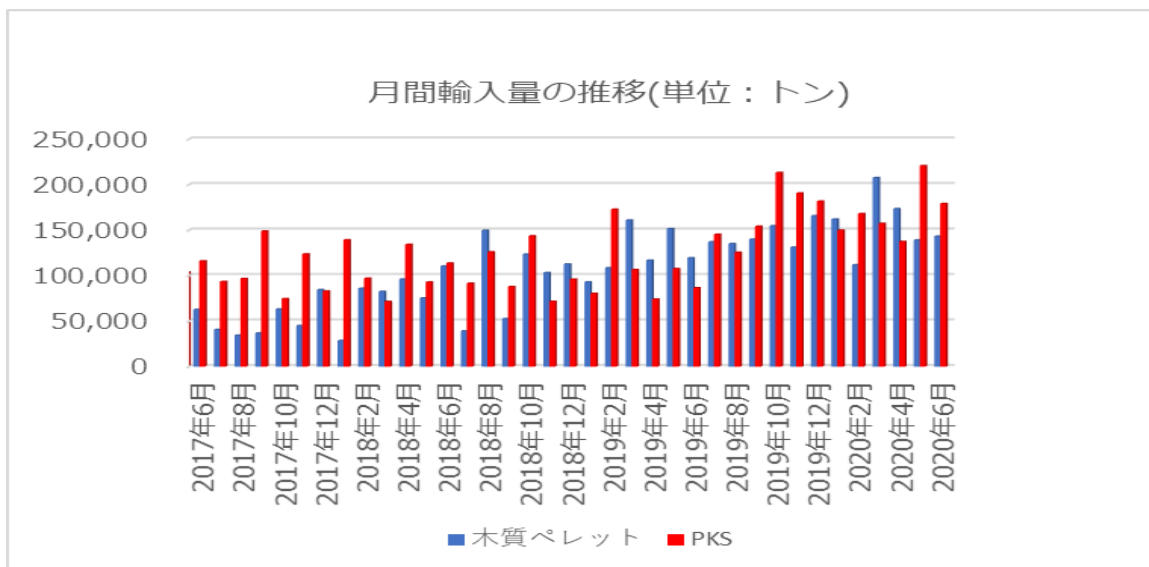
ベトナム中部のダナン市で新型コロナウイルスの感染が拡大し、同国運輸省はダナン発着の航空便の運休や、バスやタクシーの運行停止を指示した。交通機関の運休を受け、軽油やジェット燃料といった燃料油の需要後退を懸念する声が高まっている。「韓国など北東アジアからの軽油輸入量が減少する可能性がある」(北東アジアの石油会社)との声が聞かれた。

◎統計
○日本の国別・地域別木質ペレット輸入量、輸入単価 20年6月 (財務省貿易統計)

国別・地域別	20年6月			20年5月	19年6月	20年1～6月	19年1～6月
	数量(mt)	円/mt	ドル/mt	数量(mt)	数量(mt)	数量(mt)	数量(mt)
ベトナム	92,941	16,877	156.62	72,462	88,705	528,958	420,902
カナダ	31,356	20,515	190.38	45,032	17,613	290,597	266,806
マレーシア	18,581	16,104	149.44	9,706	12,512	93,066	19,882
インドネシア	387	17,140	159.06	670	382	2,316	1,625
中国	76	42,368	393.17	76	24	255	156
ニュージーランド	-	-	-	11,149	-	11,158	-
米国	-	-	-	2	-	31	163
タイ	-	-	-	-	211	11,049	11,457
ロシア	-	-	-	-	-	25	50
豪州	-	-	-	-	-	10	29,255
エストニア	-	-	-	-	-	-	23
台湾	-	-	-	-	-	-	-
合計	143,341	17,587	163.21	139,097	119,447	937,465	750,319

○日本の国別・地域別PKS輸入量、輸入単価 20年6月 (財務省貿易統計)

国別・地域別	20年6月			20年5月	19年6月	20年1～6月	19年1～6月
	数量(mt)	円/mt	ドル/mt	数量(mt)	数量(mt)	数量(mt)	数量(mt)
インドネシア	145,169	13,682	126.97	174,685	70,673	748,311	496,280
マレーシア	33,977	12,772	118.52	46,004	15,757	247,611	131,445
タイ	-	-	-	100	75	200	304
合計	179,146	13,509	125.36	220,789	86,505	996,122	628,029

○月間輸入量と平均単価推移 (財務省貿易統計)

◎マーケットニュース無料キャンペーンの実施について

リム情報開発は「在宅ワーク応援キャンペーン」としてマーケットニュースの無料公開を実施中です。エネルギーマーケットに関わる最新情報や統計データなどをいち早く配信しています。これまでご覧いただいたことがない方も是非この機会をご活用ください。

キャンペーン詳細は以下のとおり。

実施期間：7月27日(月)～8月7日(金)

対象記事：期間中に配信されるすべての記事 ※期間終了後に有料になります

◎ 『エネルギー通信』 第5号(8月20日号)のお知らせ

リム情報開発は8月20日、季刊誌『エネルギー通信』の第5号(8月20日号)を発刊いたします。石油、ガス、石炭など化石燃料の市況動向や各種貿易統計、小売自由化が進む電力やガス事業を含む国内エネルギー業界の最新事情、その他エネルギーにかかわる幅広いトピックを取り上げます。

『エネルギー通信』では毎号、リム情報開発がこれまでに蓄積してきた各エネルギーの価格情報をもとに、エネルギーの『いま』を易しく、かつ詳しく解説します。リムが得意とする日々の取引動向をミクロの情報とすると、『エネルギー通信』では、業界の大きな流れを俯瞰するマクロの情報を掲載していきます。

『エネルギー通信』は2、5、8、11月の各月下旬に発刊いたします。購読はWEB閲覧のみとなり、価格は年間契約の場合18,000円(各号5,000円)です。下記のボタンよりお申し込みください

<https://www.rim-intelligence.co.jp/contents/info/eneletter/>

◇

※リムレポートの転送は著作権により堅く禁じられております。購読契約者である組織以外だけでなく、同契約者の組織内の他部署、支社、支店などへの転送も出来ません。本レポートの全部もしくは一部の転載も禁じられています。著作権違反が発覚した場合、違約金が発生することがあります。本レポートに記載された情報の正確性については万全を期しておりますが、購読者が本レポートの情報をを用いて行う一切の行為に関して、リム情報開発株式会社は責任を負いません。また、天災、事変その他非常事態が発生し、または発生するおそれがあり、運営が困難となった場合、レポート発行を一時的に中断することがあります。

事業所一覧

[東京本社]

Tel:03-3552-2411, Fax:03-3552-2415

e-mail: info@rim-intelligence.co.jp

[シンガポール支局]

Tel:(65)-6345-9894, Fax (65)-6345-9894,

e-mail:hagimoto@rim-intelligence.co.jp

[北京支社]

Tel:(86)10-6498-0455, Fax:(86)10-6428-1725

e-mail: guanhong@rimbj.com

[上海支社]

Tel:(86)-21-5111-3575, e-mail:rim_sh@rim-intelligence.co.jp

(C) 2020 RIM INTELLIGENCE CO.